

【2014/5/26 経済学部ワークショップの様相】
《近代滋賀県の産業発展と女性の労働・生活・教育》

近代滋賀県における女性の仕事と修養

—滋賀県日野地域の事例—

高木未緒（日野町史編さん室）



日野地域の庶民女性の仕事の一事例として、西大路村に大正期に興った音羽製織所と南比都佐村における女性の副業であった製筵を中心に報告を行った。

西大路村においては、西大路尋常高等小学校の同窓会誌から、明治36年から昭和7年までの卒業生の進路が判明する。女子の主な進路である結婚・行儀見習い・進学の他に教師、病院・医院、郵便局、工場への就職も見られ、特に繊維産業工場へ勤務している女子が大正10年前後より微増している。これは大正6～11年頃にかけて、蒲生郡内に繊維産業工場が増えることが要因のひとつと考えられる。

大正期における日野地域の繊維産業工場には、西大路村の音羽製織所・朝陽製糸会社、



北比都佐村大字豊田の松阪織物工場があった。音羽製織所については、製織所が従業員へ向けて月2回発行していた「修養」というガリ版刷冊子が残存しており、その内容から、経営者側が女工に対し精励勤務と節約・時間励行を徹底して呼びかけると共に、良妻賢母を目指す修養と補習教育に力を注いでいたことがわかる。一方で音羽製織所は、地元の養蚕農家の繭を朝陽製糸会社で生糸に加工し、音羽製織所で帯地などの織物に製品化するという、地域発展策の実現の場であったとも推察される。

南比都佐村は、昭和7年に経済更生計画樹立村に指定され、様々な計画が実施された。大字の特徴的計画として製筵に力を入れていた上駒月では、女性をはじめ、一家総動員で筵に関わる生活をしてきた。特に資料から、女性が朝4時から夜明けまでに1枚の筵を織り上げる間の子どもの世話や家事の一部を男性が担っていることを示唆する記事が確認でき、製筵における女性労働力の重要性が見て取れる。

また、主婦会が指導して成果を上げた生活改善策には、主婦会の大字支部の1つが始めた改善策が他支部へ波及していった流れが共通して確認される。各大字が競い合う形で独自性のある改善策を実行し、効果のあるものを全村で取り入れていったと思われ、こうした生活改善方面での主婦会の指導力・実行力の高さをうかがえる。

発表後、農家副業の歴史的段階的把握の必要性、小学校卒業者の史料の捉え方、音羽製織所の閉鎖年について、主婦会の名称、製筵業の納品先、等々に関して活発な質疑応答が行われた。今後の課題として、こうした質疑応答を受けて、音羽製織所については被雇用者側からの検証、主婦会については指導的立場にあった特定個人の有無、筵製品の受け入れ先となる会社・工場の存在などを考え、さらに研究を深めていきたい。参加者 10 名。

(高木未緒)